

2023 年度秋 semester フィールド・スタディ シラバス

AY2023 Fall Semester Field Study Syllabus

※プログラム名をクリックするとシラバスのページにジャンプします。

*Click on the program title to jump to the syllabus page.

学部 College	担当教員 Supervising faculty	プログラム名 Program title	開講言語 Language	実習地 Activity site
ST	石川 剛生	九州を現場とする国際協力事業	J	福岡県北九州市、 宮崎県宮崎市
	土橋 卓也	北九州フィールドスタディ	J	福岡県北九州市
	KC Dipendra	Sustainable Futures: Experiencing International Development in Thailand	E	Bangkok/Chachoengsao, Thailand
	吉澤 清良	まち歩き(観光)の先進的取り組み、「長崎さるく」に学ぶ	J	長崎県長崎市
APS	塚本 崇 TSUKAMOTO Takashi	インドネシア地域研究プログラム: 特異性を多角的に見る方法 / Indonesian Studies Programme: Uniqueness through Multifaceted Lenses	E/J	インドネシア (ジョグジャカルタ) Yogyakarta, Indonesia
APM	藤本 武士	企業調査研究プログラム(ベンチャー・スタートアップ、中小企業に関する九州・沖縄のケーススタディ)	J	福岡県うきは市、福岡市 沖縄県那覇市、沖縄市
	CORTEZ Michael A.	Sustainable Agri-Entrepreneurship *TBA	E	Philippines

項目/Items	内容/Contents					
開講年度 Year	2023年度/AY2023					
講義コード Subject Code	-					
科目ナンバー Course Number	[23]-[ST]-[OFC]-1					
開講セメスター Semester	秋セメスター/Fall semester					
講義名・クラス名 Subject / Class	フィールド・スタディ					
所属学部/カリキュラムごとの履修可否・科目分野・科目名・申請可能セメスター Course availability by college/curriculum, subject field, course title, and eligible semester for application	【2023FA開講】		履修可否	科目分野	科目名	申請可能セメスター
	学部	カリキュラム				
	APS	2017	○	APS専門教育科目	環境・開発フィールド・スタディ (ED)	3~7
		2023	×	-	-	-
	APM	2017	○	他学部科目	環境・開発フィールド・スタディ (ED)	3~7
2023		×	-	-	-	
ST	2023	○	ST専門教育科目	フィールド・スタディ	1~7	
プログラム名 Program Name	九州を現場とする国際協力事業					
担当教員 Instructor	石川剛生					
実習地 Program Venue	福岡県、宮崎県					
単位数 The number of credits	2単位/2 credits					
備考 Misc. Notes	開講言語/Program language			日本語/Japanese		
	その他/Other on languages			-		
講義分野 Subject Field	-					
履修の目安 Recommended Qualifications / Knowledge	特にないが国際協力に関心があることが望ましい。					
授業概要 Course Overview	「九州を現場」とするJICAの国際協力事業の実際を学ぶことを通じて、「国際協力」に参加・関与する様々な人々・組織の視点を踏まえた国際協力の意義や地域振興への貢献等新たな取り組みについて多角的に理解し、考察を深めることを目的とする。					
到達目標 Course Objectives	<p>以下3つの視点から「九州におけるJICAの国際協力事業」について、包括的に事業を捉えることを狙いとする。</p> <p>1. 行政(JICA) JICA事業における国内機関の役割/JICAの視点(国際協力事業の協力の担い手)としての九州の特徴/(特徴を踏まえた)事業推進/事業の概要(研修、市民参加協力、企業連携)</p> <p>2. 協力・連携機関 北九州国際技術協力協会(KITA)等によるJICAとの連携事業の意義、限界、独自の国際協力事業の実際を理解する。</p> <p>3. 事業への参加者・機関 (1)草の根協力事業実施団体:活動の概要/JICA事業を利用した効果等 (2)民間連携事業活用企業:事業の概要/JICA事業を利用した効果等 (3)研修事業参加者:研修に参加した効果・帰国後の活用 (4)協力隊事業参加者:参加の動機・現地での活動・その後への繋がり等</p> <p>上記を通じた到達目標は次のとおり。</p> <p>1. JICA九州を結節点とした国際協力について学ぶ 2. 上記1. の具体事例について学ぶ 3. 上記1. 2を通じて今後の地域における国際協力のあり方について考察する</p>					
授業方法 Teaching Methods	<p>1.事前授業 (2024年1月17日(水)、24日(水)両日とも5-6限) 実習を行う基礎知識として、国際協力の概要(日本のODA、JICA)、国内を現場とする協力の意義等について理解を深める。</p> <p>2.実習 (2024年2月18日(日)~22日(木)(北九州市及び周辺) および 2月26日(月)~27日(火)(宮崎) 九州7県を所管するJICA九州、関連する諸機関への訪問・講義を通じて地域を現場とする国際協力について理解を深める。</p> <p>3.事後授業(2024年2月29日(木)、3月1日(金)両日とも2-3限) 実習を踏まえた議論と発表</p>					
毎回の授業の概要 Overview of Each Class	【事前授業】※教室は後日連絡					
	① 2024/1/17(水)5限 導入(研修の構成、担当の分担分け等)国際協力概論 1(国際協力、日本のODA)					
	② 2024/1/17(水)6限 国際協力概論 2 (国内を現場とする国際協力)					
	③ 2024/1/24(水)5限 国際協力の場としての「九州のかたち」 ④ 2024/1/24(水)6限 国際協力の場としての「九州のかたち」2(担当に基づく準備)					
【事後授業】※教室は後日連絡						
① 2024/2/29(木)2-3限 現地調査のまとめ						
② 2024/3/1(金)2-3限 最終プレゼンテーション						
実習スケジュール Practice Schedule	2024/2/18(日) ・福岡県北九州市 JICA九州に各自チェックイン(集合)					
	2024/2/19(月) ・9:50-11:30 JICA九州全体概要(質疑応答含む) ・11:30-12:00 JICA九州施設研修 ・13:00-14:40 研修事業1(研修事業概要+フォローアップについて)(含む質疑応答、コース内振り返り) ・15:00-16:40 研修事業2(研修効果を高める工夫/研修監理員さん)(含む質疑応答、コース内振り返り)					
	2024/2/20(火) ・9:50-11:30 市民参加協力(含む質疑応答、コース内振り返り) ・13:00-14:40 民間連携事業(含む質疑応答、コース内振り返り) ・15:00-16:40 協力隊事業参加者による講義(含む質疑応答、コース内振り返り)					
	2024/2/21(水) ・9:00-12:30 KITA(講義、施設見学、含む質疑応答、コース内振り返り) ・14:30-17:30 一般廃棄物処理システム構築プロジェクト(北九州市環境整備協会、草の根、フィリピン・ダバオ)					
	2024/2/22(木) ・9:30-12:00 民間連携事業(西原商事) ・15:00-17:30 民間連携事業(ウェストマネジメント) ※実習終了後、JICA九州(北九州)へ戻り、19時頃現地解散					

実習スケジュール Practice Schedule	2024/2/26(月) ・宮崎県宮崎市指定エリアのホテルに各自チェックイン (点呼)	
	2024/2/27(火) ・9:00-12:00 宮崎モデル(宮崎大学、草の根、バングラディシュ) ・14:00-17:00 宮崎県内の事業(KJS) ※実習終了後、18時頃現地解散	
授業外学習(予習・復習など)の内容と分量 Study Content and Load outside of Class (preparation and review)	1. 予習:事前授業については配布資料に事前に目を通すこと(1時間程度) 2. 復習:実習については、分担して議事メモを作成し参加学生内で共有することを想定(1時間程度)	
成績評価方法 Method of Grade Evaluation	5段階評価 Letter grades(A+, A, B, C/ F)	
	・積極的な参加: 40%(事前授業、実習に参加者が分担して議事メモを作成) ・プレゼンテーション: 40%(事後授業で実施) ・レポート: 20%(プレゼンテーションをレポート化したもの。A4で3頁程度を想定)	
多文化協働学修の実践方法 Method of Implementing Multicultural Collaborative Learning	フィールド・スタディの対象課題自体が、地域の様々な機関や人々による国際協力や国際交流であり、実習やグループ作業を通じて「多文化の環境で協働する」ことについて理解を深めることを狙う。	
授業担当教員の実務経験 Instructor's professional experience/involvement (outside academia)	1. (株)ブリヂストン(本社経理、市場調査)(1988-93年) 2. 青年海外協力隊(グアテマラ、市場調査)(1994-96年) 3. (独)国際協力機構 (1998-2022) (1)本部(調達、地球環境、中南米各部)(計8年) (2)地方(広島、東京)(計6年) (3)海外(パラグアイ、ニカラグア、エクアドル)(計9.5年)(内後2カ国については現地責任者)	
学生への要望事項 Requirements for Students	1. 身心の体調管理に十分留意願います。 2. 集団行動となるので、時間厳守を含む大人としての振舞いを求めます。 3. 積極的に取り組むことで実習先の諸機関の好意や計らいに誠意を持って応えることを求めます。	
テキスト / 備考 Textbook Notes	特に無し	
テキスト (授業を履修する上で、購入が必須となる書物) Textbook (Students will need to purchase these textbooks when registering for this course.)	特に無し	
参考文献備考 Further Reading Notes	特に無し	
参考文献 (図書、視聴覚資料) ライブラリリザーブコーナーに設置 Further Reading (Books, audiovisual materials) (Available at Reserved Corner in the APU Library)	特に無し	
参考文献 (雑誌、年鑑白書等) Further Reading (Journal articles, white papers, year books, etc.)	<p>- 下村恭民 [ほか] 2016年「国際協力: その新しい潮流」有斐閣選書 公財 九州経済調査会 2019年「30年後に向けた九州地域発展戦略」 https://www.jica.go.jp/partner/about/ku57pq00001wsowh-att/partner_summary.pdf JICA 2022年 市民参加協力事業 概要</p> <p>- https://www.jica.go.jp/partner/about/ku57pq00001wsowh-att/kadaibetsu_siminsanka_02.pdf JICA 2016年 市民参加課題別指針</p> <p>- https://www.jica.go.jp/activities/schemes/multicultural/v4lphn000004q87-att/materials_01.pdf JICA 2023 外国人人材・多文化共生に資するJICAの取組み</p> <p>- https://www.jica.go.jp/about/report/2022/glkkrk00000099zm-att/2022_J_all.pdf JICA 2022 事業年報</p> <p>- https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/files/100507326.pdf 外務省 2022 開発協力白書</p>	
備考 Misc. Notes	募集人数 Number of participants	15
	最少実施人数 Minimum number of participants	5
	派遣地域安全情報 Safety Information for Dispatch Areas (as of: (Y) (M) (D) 現在)	-
	参加費(目安) Program fee (approx.) ※実際の費用は受講者数確定後、再度案内します。 ※Actual program fees will be announced again after the number of participants is confirmed.	<p>約95,000円 [上記に含むもの] ・宿泊費 (2/18-2/22 JICA九州での4泊 及び 2/26 宮崎市での1泊) ・現地交通費 (公共交通機関、貸切バス/タクシーでの移動) ・施設使用料 ・謝礼 等</p> <p>[上記に含まれないもの] ・国内旅行保険 1,800円 (1,000円 + 800円) ・日本国内交通費 (別府⇄JICA九州間 & 別府⇄宮崎市内) 約25,000円 ・食費 ・上記以外のすべての費用</p>
担当教員研究室電話番号 Office Phone No.	4338	
担当教員E-mailアドレス E-mail Address	t-ishiq@apu.ac.jp	
E-Book および 関連ページ E-Book & Course-related links	特に無し	

項目/Items	内容/Contents					
開講年度 Year	2023年度/AY2023					
講義コード Subject Code	-					
科目ナンバー Course Number	【2023年度カリキュラム】 [23]-[ST]-[OFC]-1					
開講semester Semester	秋semester/Fall semester					
講義名・クラス名 Subject / Class	フィールド・スタディ					
所属学部/カリキュラムごとの履修可否・科目分野・科目名・申請可能semester Course availability by college/curriculum, subject field, course title, and eligible semester for application	【2023FA開講】		履修可否	科目分野	科目名	申請可能semester
	学部	カリキュラム				
	APS	2017	○	APS専門教育科目	環境・開発フィールド・スタディ (ED)	3~7
		2023	×	-	-	-
	APM	2017	○	他学部科目	環境・開発フィールド・スタディ (ED)	3~7
		2023	×	-	-	-
ST	2023	○	ST専門教育科目	フィールド・スタディ	1~7	
プログラム名 Program Name	フィールド・スタディ「北九州フィールドスタディ」					
担当教員 Instructor	土橋 卓也					
実習地 Program (practicum) Venue	福岡県北九州市					
単位数 The number of credits	2単位/2 credits					
備考 Misc. Notes	開講言語/Program language			日本語/Japanese		
	その他/ Other on languages			-		
講義分野 Subject Field	-					
履修の目安 Recommended Qualifications / Knowledge	グループワークに積極的に参加する学生を想定しているため相当なコミュニケーションスキルがあることが望ましい。					
授業概要 Course Overview	「環境」と「観光」がテーマのこのフィールドスタディでは、事前授業では北九州市の環境問題の歴史と取り組みを、産業遺産をどのように観光資源として地域振興に活用しているかを学び、調査対象を絞りグループワークの事前準備を行う。現地実習後、事後授業にてグループ発表を行い実習を振り返る。					
到達目標 Course Objectives	北九州市の実践から以下のことを学ぶ。 ・環境問題への市民の関与 ・国際環境協力 ・環境産業の役割 ・産業遺産による地域振興					
授業方法 Teaching Methods	1. 北九州市環境局による環境講座の受講 2. 北九州市の優れた実践の見学/フィールド訪問 3. グループワークとディスカッション 4. グループ発表 5. 個人ワーク発表・実習の振り返り意見交換・最終レポート提出 「多文化協働学習の手法」事前授業にてグループ分けを行い国内国際学生で調査目的・グループワークにおける役割分担などを決め、最終発表に向けて準備を行う。					
毎回の授業の概要 Overview of Each Class	【事前授業】※教室は後日連絡					
	1/10(水) 5,6限 北九州市 環境対策・工業地帯としての歴史・産業遺産					
	1/24(水) 5,6限 地域振興としての観光 フィールドワークについて					
	【事後授業】※教室は後日連絡					
	3/2(土) 2,3限 フィールドワーク調査のグループ発表					
	3/9(土)2限 個人ワークの発表。実習全体振り返りと全体での意見交換					
実習スケジュール Practicum Schedule	2/19(月) ・官営八幡製鉄所 第一高炉史跡 環境ミュージアム視察 ・北九州イノベーションギャラリー視察 ・一日の振り返り グループワーク作業					
	2/20(火) ・環境テクノス(株)見学 社長講義 ・エコタウン見学 次世代エネルギーパーク視察 ・一日の振り返り グループワーク作業					
	2/21(水) ・北九州市環境局 特別講座 ・歴史産業遺産視察 ・一日の振り返り グループワーク作業					
	2/22(木) ・TOTOミュージアム 小倉城 リバーウォーク見学 ・門司港レトロエリア 視察					

授業外学習(予習・復習など)の内容と分量 Study Content and Load outside of Class (preparation and review)	事前授業の学習内容に加え、「環境」と「観光」による地域振興に取り組む北九州市の特色を調べ、調査内容を絞り込みグループワークの準備を行ってください。	
成績評価方法 Method of Grade Evaluation	5段階評価 Letter grades (A+, A, B, C/ F)	
	事前・事後授業、現地実習、ディスカッションと発表及び最終レポートで評価を行う。	
	フィールド活動・講義への積極的な参加・時間厳守 40%	
	グループ発表 30%	
最終レポート 30%		
多文化協働学修の実践方法 Method of Implementing Multicultural Collaborative Learning	国内・国際学生をバランスよく組み合わせ、グループ協働作業を通じて相互理解を促進する。	
授業担当教員の実務経験 Instructor's professional experience/involvement (outside academia)	1985年～2020年まで日本航空(株)に勤務 国内事業計画・収入予算・宣伝を主として担当する。 1998年～2001年間 北海道旅客鉄道(株)に赴任。 2010年～2015年間 マレーシアに駐在 2021年よりAPUに着任。	
学生への要望事項 Requirements for Students	本プログラムはグループワークを中心に進めるため、時間厳守、仲間とのコミュニケーションスキル、協力的姿勢が求められる。	
テキスト備考 Textbook Notes	特に無し	
テキスト (授業を履修する上で、購入が必須となる書物) Textbook (Students will need to purchase these textbooks when registering for this course.)	特に無し	
参考文献備考 Further Reading Notes	特に無し	
参考文献 (図書、視聴覚資料) ライブラリリザーブコーナーに設置 Further Reading (Books, audiovisual materials) (Available at Reserved Corner in the APU Library)	特に無し	
参考文献 (雑誌、年鑑白書等) Further Reading (Journal articles, white papers, year books, etc.)	特に無し	
備考 Misc. Notes	募集人数 Number of participants	15
	最少実施人数 Minimum number of participants	5
	派遣地域安全情報 Safety Information for Dispatch Areas	-
	参加費(目安) Program fee (approx.) ※実際の費用は受講者数確定後、再度案内します。	約35,000円 [上記に含むもの] ・宿泊費(朝食付き) ・現地交通費(実習先でのタクシー料金) [上記に含まれないもの] ・食費(昼食・夕食) ・実習地までの往復交通費 ・実習先でのJR運賃、フェリー乗船料金、施設入館料 (4,000円程度を予定) ・国内旅行保険費用(1,000円)
担当教員研究室電話番号 Office Phone No.	内線 4509	
担当教員E-mailアドレス E-mail Address	ts21013c@apu.ac.jp	
E-Book および 関連ページ E-Book & Course-related links	特に無し	

項目/Items	内容/Contents					
開講年度 Year	2023年度/AY2023					
講義コード Subject Code	—					
科目ナンバー Course Number	[23]-[ST]-[OFC]-1					
開講セメスター Semester	秋セメスター/Fall semester					
講義名・クラス名 Subject / Class	フィールド・スタディ/Field Study					
所属学部/カリキュラムごとの履修可否・科目分野・科目名・申請可能セメスター Course availability by college/curriculum, subject field, course title, and eligible semester for application	【2023FA】		履修可否 / Course availability	科目分野 / Subject field	科目名 / Course name	申請可能セメスター / Eligible semester
	学部/College	カリキュラム/Curriculum				
	APS	2017	○	APS専門教育科目 / APS Major Education Subjects	環境・開発フィールド・スタディ (ED) / Field Study for Environment & Development (ED)	3~7
		2023	×	—	—	—
	APM	2017	○	他学部科目 / Other College Subjects	環境・開発フィールド・スタディ (ED) / Field Study for Environment & Development (ED)	3~7
		2023	×	—	—	—
ST	2023	○	ST専門教育科目 / ST Major Education Subjects	フィールド・スタディ / Field Study	1~7	
プログラム名 Program Name	Field Study "Sustainable Futures: Experiencing International Development in Thailand"					
担当教員 Instructor	K C Dipendra					
実習地 Program Venue	Bangkok, Thailand					
単位数 The number of credits	2単位/2 credits					
備考 Misc. Notes	開講言語/Program language			英語/English		
	その他/ Other on languages			Basic English proficiency will be needed to be successful in this course.		
講義分野 Subject Field	—					
履修の目安 Recommended Qualifications / Knowledge	Required to complete approximately 11 hours of pre-class preparation					
授業概要 Course Overview	This immersive practicum course offers students a unique opportunity to understand international development in Bangkok, Thailand, through hands-on experiences and interactions with key actors operating at micro, meso, and macro levels. Students will engage with local social entrepreneurs, supporting organizations, and United Nations agencies to explore how sustainability and development are promoted in the region. The course is designed to provide students with insights into the multifaceted nature of development, as well as valuable practical experience to supplement their academic studies. Throughout the course, students will engage in a combination of lectures, discussions, site visits, and hands-on activities to deepen their understanding of international development and its various dimensions. By the end of the practicum, students will have gained valuable insights into the complex interplay of actors and factors shaping sustainable development in Thailand and beyond.					
到達目標 Course Objectives	Develop an understanding of international development at micro, meso, and macro levels. Examine the role of social entrepreneurs, intermediary organizations, and international agencies in promoting sustainable development. Gain insights into the challenges and opportunities faced by various actors in the development ecosystem. Build practical skills through immersion and interaction with development professionals in Thailand.					
授業方法 Teaching Methods	Lecture, Site visits, Group Discussions					
毎回の授業の概要 Overview of Each Class	【Pre-lectures】※Classroom will be announced at a later date.					
	2024/1/10 (Wed) ・ 5th - 6th periods: Overview of the field study course					
	2024/1/24 (Wed) ・ 5th - 6th periods: International Development, Levels, and Actors					
	【Post-lectures】※Online					
	2024/2/28 (Wed) ・ 2nd - 3rd periods: Integration and Reflection					
	2024/3/2 (Sat) ・ 2nd period: Student Presentation					
実習スケジュール Practice Schedule	2024/2/19(Mon) Travel from Fukuoka, Japan to Bangkok, Thailand					
	2024/2/20(Tue) ・ Lecture: Contemporary Sustainability Issues in Thailand and ASEAN (Thammasat University) ・ Student exchange on sustainability issues in Thailand, Japan and home countries (Thammasat University)					
	2024/2/21(Wed) ・ Visit to a social enterprise focused on increasing organic farming areas (Rambler Social Enterprise) ・ Visit to a social enterprise focused on creating employment opportunities for neuro divergent communities (STEPS Social Enterprise)					
	2024/2/22(Thu) ・ Visit to an intermediary and supporting organizations in Thailand's development ecosystem (ISMED) ・ Visit to an intermediary and supporting organizations in Thailand's development ecosystem (SE Thailand)					

実習スケジュール Practice Schedule	2024/2/23(Fri) ・ Visit to United Nations (Bangkok) ・ Visit to National Museum (Bangkok)	
	2024/2/24(Sat) ・ Sustainable Development in action: Field visit to Ban Pakong community (Chachoengsao)	
	2024/2/25(Sun) Travel from Bangkok, Thailand to Fukuoka, Japan	
授業外学習(予習・復習など)の内容と分量 Study Content and Load outside of Class (preparation and review)	Students will need to dedicate around 11 hours to pre-class preparation. This will involve two main components: reviewing selected readings that cover important concepts, theories, and case studies in international development (approximately 5 hours), and attending in-class preparation on the socio-economic, political, and cultural aspects of Thailand (6 hours).	
成績評価方法 Method of Grade Evaluation	5段階評価 Letter grades (A+, A, B, C/ F)	
	・Participation and Engagement : 50% ・Individual Reflection Presentation : 50%	
多文化協働学習の実践方法 Method of Implementing Multicultural Collaborative Learning	Multicultural collaborative learning is actively promoted in this course by fostering an inclusive learning environment that embraces diverse perspectives and encourages students from different cultural backgrounds to work together. Through group activities, discussions, and field visits, students will have the opportunity to share their unique insights, experiences, and knowledge, while also learning from their peers. This collaborative approach not only enriches the learning experience but also helps students develop essential intercultural communication skills, fostering mutual understanding and respect, and preparing them to work effectively in diverse teams within the global development sector.	
授業担当教員の実務経験 Instructor's professional experience/involvement (outside academia)	Dipendra, the course instructor, brings a wealth of experience and expertise in international development, having co-founded an NGO in Nepal, worked with a social enterprise in Bangkok, and contributed as a research consultant for various UN agencies. In addition, he has a strong academic background as a faculty member in Thailand, teaching courses on designing organizations, social entrepreneurship, and social innovation. His interdisciplinary background and passion for fostering multicultural collaboration make him an ideal instructor to guide students through the complexities of international development at various levels, bridging the gap between theory and practice.	
学生への要望事項 Requirements for Students	Nil	
テキスト / 備考 Textbook Notes	Nil	
テキスト (授業を履修する上で、購入が必須となる書物) Textbook (Students will need to purchase these textbooks when registering for this course.)	Nil	
参考文献備考 Further Reading Notes	Nil	
参考文献 (図書、視聴覚資料) ライブラリリザーブコーナーに設置 Further Reading (Books, audiovisual materials) (Available at Reserved Corner in the APU Library)	Nil	
参考文献 (雑誌、年鑑白書等) Further Reading (Journal articles, white papers, year books, etc.)	Nil	
備考 Misc. Notes	募集人数 Number of participants	15
	最少実施人数 Minimum number of participants	5
	派遣地域安全情報 Safety Information for Dispatch	1
	参加費(目安) Program fee (approx.) ※実際の費用は受講者数確定後、再度案内します。 ※Actual program fees will be announced again after the number of participants is confirmed.	Approx. 150,000JPY [Fees included] ・ Airfare ・ Accommodation ・ Transportation on-site (chartered bus) ・ Honorarium [Fees not included] ・ Transportation on-site (public transportation) ・ Food expenses ・ Visa application & its related fees (if applicable) ・ Overseas travel insurance & Risk Management Support System ・ Ground transportation in Japan ・ Immunization (optional) ・ All costs not included above
担当教員研究室電話番号 Office Phone No.	4201	
担当教員E-mailアドレス E-mail Address	dipendra@apu.ac.jp	
E-Book および 関連ページ E-Book & Course-related links	Nil	

項目/Items	内容/Contents					
開講年度 Year	2023年度/AY2023					
講義コード Subject Code	—					
科目ナンバー Course Number	【2023年度カリキュラム】 [23]-[ST]-[OFC]-1					
開講セメスター Semester	秋セメスター/Fall semester					
講義名・クラス名 Subject / Class	フィールド・スタディ					
所属学部/カリキュラムごとの履修可否・科目分野・科目名・申請可能セメスター Course availability by college/curriculum, subject field, course title, and eligible semester for application	【2023FA開講】		履修可否	科目分野	科目名	申請可能セメスター
	学部	カリキュラム				
	APS	2017	○	APS専門教育科目	観光学フィールド・スタディ (HT)	3~7
		2023	×	—	—	—
	APM	2017	○	他学部科目	観光学フィールド・スタディ (HT)	3~7
		2023	×	—	—	—
ST	2023	○	ST専門教育科目	フィールド・スタディ	1~7	
プログラム名 Program Name	フィールド・スタディ「まち歩き(観光)の先進的取り組み、「長崎さるく」に学ぶ」					
担当教員 Instructor	吉澤 清良					
実習地 Program (practicum) Venue	長崎県長崎市					
単位数 The number of credits	2単位/2 credits					
備考 Misc. Notes	開講言語/Program language		日本語/Japanese			
	その他/ Other on languages		—			
講義分野 Subject Field	—					
履修の目安 Recommended Qualifications / Knowledge	(1)事前授業・実習・事後授業の全ての参加を求める。 (2)住民参加の観光まちづくりに関心のある学生の参加を推奨する。 (3)国際学生の参加も歓迎するが、日本語の本・資料を読み書きする能力と積極的な参加姿勢を求める。					
授業概要 Course Overview	<p>●長崎市は開港以来450年以上の歴史を有する国際交流のまち。観光客数は、高度成長期の増加傾向を経て、1990年の長崎旅博覧会には628万人を数えたが、その後、長らく減少傾向が続く。2006年、危機感を覚えた田上前市長(当時市職員)の提案した日本発のまち歩き博覧会「長崎さるく博'06」が注目を集め、観光客数も増加に転じることになる。以降も各種政策の実施により、観光客数は順調に推移し、2019年には700万人近くを集めたが、2020年以降はコロナ禍の影響もあって250万人台で推移している。そうした中、2022年9月の「九州新幹線西九州ルート」などの追い風もあり、再起に向けた取り組みも加速している。(※さるく:街をぶらぶら歩くという意味の長崎弁)</p> <p>●元々「長崎さるく」は、別府市の「別府八湯温泉博覧会(地域資源を活用した体験型プログラムを行うイベント)」を手本に発案されたものであり、前者が行政主導、後者が民間主導の違いはあるものの、両者ともに観光まちづくりにおける住民参加の好例であり、その手法は国内外の多くの観光地に普及することになった。</p> <p>●観光まちづくりの手段として「まち歩き(観光)」に取り組む自治体が増えている。本プログラムでは先進事例の長崎市を例に、人を活かし街を活かす「まち歩き(観光)」の要諦を学ぶ。特に実習では、「長崎さるく博'06」において中心的な役割を担った市民が組織した「NPO法人長崎コンプラドール」の協力を得て、まち歩き体験や意見交換などを行い、まち歩き(観光)が長崎市に与えた影響、その意義(位置づけ、価値)、街の見方・見せ方、ガイドの活かし方、事業の継続のヒントなど学ぶ。また、長崎市内の主要な観光資源(JTBF調査A級・B級等)や長崎の街なかを自らの目(外の目・学生目線)で踏査し、観光資源の見方・見せ方を学ぶとともに、新たな魅力素材を発見する力、それらを活かす(表現する)力(例:マップ素案、コース素案の作成等)を養う。</p>					
到達目標 Course Objectives	(1)事前の文献調査、効率的な調査計画の立案、現地での聞き取り調査、意見交換・とりまとめなどにより、フィールドワークの手法を身に付ける。 (2)学生間での議論やグループワーク、実習での訪問・見学を通して、多様な視点から観光まちづくりの課題に向き合い、その要諦を理解できるようになる。 (3)特にまち歩き(観光)の要諦を理解し、課題に対して説得力のある自分なりの提案をできるようになる。					
授業方法 Teaching Methods	(1)教員による事前授業 ※キーワード:観光資源評価、観光地経営、DMO、まち歩き(観光)、長崎観光、長崎さるく (2)事前授業でのグループワーク、実習での意見交換、事後授業でのグループワークと発表 ※事前グループワーク内容:文献調査、問題の発見と課題の設定、調査計画の立案 ※事後グループワーク内容:(例)長崎の街を例にした魅力素材の活かし方の検討 (3)まち歩き(観光)による地域活性化を推進する「NPO法人長崎コンプラドール」によるまち歩き体験と意見交換など (4)事後授業での各自の最終レポートの作成と発表					
毎回の授業の概要 Overview of Each Class	<p>【事前授業】※教室は後日連絡</p> <p>① 1/10(水)5限 観光資源と観光対象、観光資源の評価、観光地経営とは</p> <p>② 1/10(水)6限 長崎市の観光の概要について</p> <p>③ 1/17(水)5限 「まち歩き(観光)一般論」「長崎さるく」について</p> <p>④ 1/17(水)6限 グループワーク①(文献調査、問題の発見と課題の設定、調査計画の立案等)</p> <p>⑤ 1/24(水)5限 グループワーク②(文献調査、問題の発見と課題の設定、調査計画の立案、実習前の最終確認等)</p> <p>【事後授業】※教室は後日連絡</p> <p>① 3/6(水)4限 実習を踏まえたグループワーク</p> <p>② 3/6(水)5限 グループの成果発表</p> <p>③ 3/7(木)4限 実習を踏まえた各自の作業</p> <p>④ 3/7(木)5限 各自の成果発表</p>					

<p>実習スケジュール Practicum Schedule</p>	<p>2/26(月) ・12:00 集合:ホテルニュー長崎(荷物預入) ・13:00-17:00 「長崎さるく」体験 ※長崎コンプラドール事務局長 田中潤介氏による案内。眼鏡橋(JTBF調査B級資源)、出島(B級資源)2コース。 ・18:00-19:30 意見交換 ※夕食(各自弁当)を兼ねた意見交換。長崎コンプラドール事務局長 田中潤介氏同席。 ・ワークシート記入</p> <p>2/27(火) ・08:30-09:00 ミーティング ・09:30-12:30 平和公園(A級資源)、長崎原爆資料館及び周辺の観光資源調査(適宜、班別行動) ・13:45-17:00 大浦天主堂(A級資源)、旧グラバー住宅(A級資源)及び周辺の観光資源調査(最後は長崎県美術館前に集合)(適宜、班別行動) ・徒歩にて長崎水辺の森公園やウォーターフロント開発を視察しつつホテルニュー長崎へ移動 ・ワークシート記入</p> <p>2/28(水) ・09:00-10:30 ミーティング ・10:30-16:00 長崎市中心部(眼鏡橋、仲通商店街等)を中心とした資源調査(外の目、学生目線での魅力素材の発見)(適宜、班別行動) ・16:00-17:00 情報共有・意見交換 ・ワークシート記入</p> <p>2/29(木) ・09:00-12:00 まとめ作業、実習総括 ・12:00 解散</p>
<p>授業外学習(予習・復習など)の内容と分量 Study Content and Load outside of Class (preparation and review)</p>	<p>●予習:講義する内容は「まち歩き(観光)」「長崎観光」「長崎さるく」を中心に据えつつも、観光資源評価、観光地経営、DMOなど広範囲に及ぶ。講義前に参考資料を提供するので目を通しておくこと。またトピックやキーワードを提示するので調べておくこと。 ●復習:各回の講義は密接に関連している。受講後にはこれまで受講した授業内容を改めて振り返り、しっかりと復習しておくこと。</p>
<p>成績評価方法 Method of Grade Evaluation</p>	<p>5段階評価 Letter grades(A+, A, B, C/ F)</p> <p>●事前授業・実習・事後授業への積極的な参加40%:到達目標(1)(2)(3)の達成に向けて、毎回の授業では理解度や問題意識等を問うコメントシートの提出を求める。また実習においてもワークシートの提出を求める。内容の着眼点や論理性などを評価する。</p> <p>●グループ発表30%:主に到達目標(2)の達成に向けて、発表時には問題の発見と課題の設定、課題に対する改善(案)の論理性ばかりではなく、議論の経過や異なる意見等への対応方なども含めて総合的に評価する。</p> <p>●各自の最終レポートの作成30%:主に到達目標(3)の達成に向けて、現地調査(実習)を踏まえた上で考えた「まち歩き(観光)への期待、今後の展開」などについてレポートを作成する。現状と課題に対する理解度、発想力、分かりやすさ、説得力、論理性などの観点から評価する。</p>
<p>多文化協働学修の実践方法 Method of Implementing Multicultural Collaborative Learning</p>	<p>●学生(国際学生、国内学生)間でのグループワーク、意見交換を通して、多様な視点から観光まちづくりの課題にアプローチする環境を提供する。</p>
<p>授業担当教員の実務経験 Instructor's professional experience/involvement (outside academia)</p>	<p>●所属:公益財団法人日本交通公社 調査研究部門 ●業務:旅行・観光分野の調査研究機関(シンクタンク・コンサルタント)において、主に地域の観光計画や戦略の策定等に関わる(1992~2022年)。</p>
<p>学生への要望事項 Requirements for Students</p>	<p>(1)事前授業・実習・事後授業の全ての参加を求める。また、グループワークや実習では積極的にコミュニケーションをとる姿勢が必要である。 (2)実習は外部関係者の協力のもとに実施するものであるため、大人として責任と誠意ある行動を求める。 (3)実習では、坂のまち長崎を徒歩を基本にフィールドワークを行うことから相応の体力が必要となる。このことを理解した上での受講を求める。 (4)事前授業をよく理解し実習に生かし、事後授業では各班ごとに発表、また各自がレポートを作成し発表することが必要である。</p>
<p>テキスト備考 Textbook Notes</p>	<p>わが国の観光地は、人口減少による需要衰退、外国人旅行者の急増、交通条件・IT 整備等による旅行先の多様化・分散化など市場環境の変化の真っ只中にある。テキストとする「観光地経営の視点と実践」は、こうした環境の変化に対応し、持続的な地域経済の維持・発展を図るため、「観光地経営」の考え方を提示したもの。観光地経営を実現させるためのポイント(視点)を9つ提示し、観光地経営の参考となる10事例では長崎さるくも取り上げている(「事例9. “まち歩き”を通じた観光の質の転換(長崎県長崎市)」)。</p>
<p>テキスト (授業を履修する上で、購入が必須となる書物) Textbook (Students will need to purchase these textbooks when registering for this course.)</p>	<p>(1)観光地経営の視点と実践[第2版](丸善出版(2019/4/7)) 978-4621303849</p>
<p>参考文献備考 Further Reading Notes</p>	<p>参考文献には、二セコ町長の片山健也氏、また二セコ町発展の礎を創った元町長の逢坂誠二氏に関する図書その他、自治体における観光の基礎知識と観光政策の手法が整理された「はじめてでもわかる!自治体職員のための観光政策立案必携」を取り上げた。</p>

<p>参考文献 (図書、視聴覚資料) ライブラリリザーブコーナーに設置 Further Reading (Books, audiovisual materials) (Available at Reserved Corner in the APU Library)</p>	<p>(1)まち歩きが観光を変える―長崎さるく博プロデューサー・ノート(学芸出版社(2008/2/10)) 978-4761512378 (2)「まち歩き」をしかける コミュニティ・ツーリズムの手ほどき(学芸出版社(2012/7/30)) 978-4761513122 (3)平成24年度観光実践講座講義録 人を活かし、まちを活かす観光の考え方～見えない価値を見せる「まち歩き」の実践(公益財団法人日本交通公社(2013/3/1)) 978-4902927528 (4)平成25年度観光実践講座講義録 オンパクに学ぶ、観光まちづくりの理論と実践:「地域活性化」の秘訣、「課題解決」のヒント!(公益財団法人日本交通公社(2014/6/1)) 978-4902927986</p>								
<p>参考文献 (雑誌、年鑑白書等) Further Reading (Journal articles, white papers, year books, etc.)</p>	<p>(1)観光白書(観光庁)https://www.mlit.go.jp/statistics/file000008.html (2)長崎県観光統計(長崎県)https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/kanko-kyoiku-bunka/kanko-bussan/statistics/kankoutoukei/ (3)長崎市観光統計(長崎市)https://www.city.nagasaki.lg.jp/kanko/8200010/index.html (4)旅行年報(公益財団法人日本交通公社)https://www.jtb.or.jp/book/category/annual-report/</p>								
<p>備考 Misc. Notes</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="577 539 868 566">募集人数 Number of participants</td> <td data-bbox="868 539 1455 566">15</td> </tr> <tr> <td data-bbox="577 566 868 651">最少実施人数 Minimum number of participants</td> <td data-bbox="868 566 1455 651">5</td> </tr> <tr> <td data-bbox="577 651 868 730">派遣地域安全情報 Safety Information for Dispatch Areas</td> <td data-bbox="868 651 1455 730">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="577 730 868 1084">参加費(目安) Program fee (approx.) ※実際の費用は受講者数確定後、再度案内します。</td> <td data-bbox="868 730 1455 1084"> <p>約30,000円 [上記に含むもの] ・宿泊費(食事なし) ・「長崎さるく」体験費用 ・会議室レンタル費用</p> <p>[上記に含まれないもの] *食費 *別府～長崎市交通費(高速バスの場合往復8,500円) *長崎市内交通費(路面電車420円程度) *国内旅行保険費用(1,000円)</p> </td> </tr> </table>	募集人数 Number of participants	15	最少実施人数 Minimum number of participants	5	派遣地域安全情報 Safety Information for Dispatch Areas	-	参加費(目安) Program fee (approx.) ※実際の費用は受講者数確定後、再度案内します。	<p>約30,000円 [上記に含むもの] ・宿泊費(食事なし) ・「長崎さるく」体験費用 ・会議室レンタル費用</p> <p>[上記に含まれないもの] *食費 *別府～長崎市交通費(高速バスの場合往復8,500円) *長崎市内交通費(路面電車420円程度) *国内旅行保険費用(1,000円)</p>
募集人数 Number of participants	15								
最少実施人数 Minimum number of participants	5								
派遣地域安全情報 Safety Information for Dispatch Areas	-								
参加費(目安) Program fee (approx.) ※実際の費用は受講者数確定後、再度案内します。	<p>約30,000円 [上記に含むもの] ・宿泊費(食事なし) ・「長崎さるく」体験費用 ・会議室レンタル費用</p> <p>[上記に含まれないもの] *食費 *別府～長崎市交通費(高速バスの場合往復8,500円) *長崎市内交通費(路面電車420円程度) *国内旅行保険費用(1,000円)</p>								
<p>担当教員研究室電話番号 Office Phone No.</p>	<p>外線 0977-78-1056 内線 4204</p>								
<p>担当教員E-mailアドレス E-mail Address</p>	<p>kiyshi@apu.ac.jp</p>								
<p>E-Book および 関連ページ E-Book & Course-related links</p>	<p>(1)長崎市観光・MICE戦略ver1.1(改訂版) https://www.city.nagasaki.lg.jp/syokai/730000/731000/p036435.html (2)長崎市DMO事業計画ver1.0(2021-2025)(一般社団法人長崎観光コンベンション協会) https://nagasaki-visit.or.jp/wp-content/uploads/2021/05/a4267d4438f5535ffb0263d990fee160-1.pdf (3)長崎さるく(一般社団法人長崎観光コンベンション協会) https://saruku.nagasaki-visit.or.jp/ (4)長崎市の歴史や文化を活用した まち歩き「長崎さるく」(総務省) https://www.soumu.go.jp/main_content/000063244.pdf (5)「長崎さるく」これからの進化に向けて(公益財団法人日本観光振興協会) https://www.nihon-kankou.or.jp/home/userfiles/files/4bunyu.pdf (6)まち歩きはあまかせ!観光頭脳集団「長崎コンプラドール」(NPO法人長崎コンプラドール) http://www4.cncm.ne.jp/~compradore/knonpura-00top.htm https://core.ac.uk/download/pdf/364708292.pdf (7)まち歩き観光における住民の役割パフォーマンスに関する研究:長崎さるくを事例として(北海道大学、金明柱) https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/81254/1/Kim_Myeongju.pdf (8)[論考] 住民まち歩きガイドの特徴と養成に関する考察:従来の観光ボランティアガイドと比較して(亜細亜大学、久保田美穂子) (9)地域の輝きを育てる「オンパク」モデル(公益財団法人NIRA総合研究開発機構) https://www.nira.or.jp/paper/article/2008/mg06.html</p>								

項目/Items	内容/Contents					
開講年度 Year	2023年度/AY2023					
講義コード Subject Code	-					
科目ナンバー Course Number	[17]-[S]-[CSM]-2					
開講semester Semester	秋semester/Fall semester					
講義名・クラス名 Subject / Class	フィールド・スタディ/Field Study					
所属学部/カリキュラムごとの履修可否・科目分野・科目名・申請可能semester Course availability by college/curriculum, subject field, course title, and eligible semester for application	【2023FA】		履修可否 / Course availability	科目分野 / Subject field	科目名 / Course name	申請可能 semester / Eligible semester
	学部/College	カリキュラム /Curriculum				
	APS	2017	○	APS専門教育科目 / APS Major Education Subject	文化・社会・メディアフィールド・スタディ /Field Study for Culture, Society and Media(CSM)	3~7
		2023	×	-	-	-
	APM	2017	○	他学部科目 / Other College Subject	文化・社会・メディアフィールド・スタディ /Field Study for Culture, Society and Media(CSM)	3~7
		2023	×	-	-	-
ST	2023	×	-	-	-	
プログラム名 Program Name	インドネシア地域研究プログラム:特異性を多角的に見る方法 Indonesian Studies Programme: Uniqueness through Multifaceted Lenses					
担当教員 Instructor	塚本 崇 / TSUKAMOTO Takashi					
実習地 Program Venue	インドネシア(ジョグジャカルタ) / Yogyakarta (Indonesia)					
単位数 The number of credits	2単位/2 credits					
備考 Misc. Notes	開講言語/Program language		日本語・英語/Japanese and English			
	その他/ Other on languages		現地で英語でのディスカッションを予定しているため、高い英語力があることが理想的。 Ideally, students should have a high level of English proficiency, as we plan to have discussions in English on site.			
講義分野 Subject Field	-					
履修の目安 Recommended Qualifications / Knowledge	特にないが、東南アジア地域に興味があることが望ましい。 This course assumes no prior knowledge and qualifications, but students who have specific interests in Southeast Asia are particularly welcome to register.					
授業概要 Course Overview	<p>本プログラムでは、フィールド・スタディ(フィールド・ワーク)の手法を用いることで、インドネシアが現在直面する諸問題を多角的に考察できるようになることを目的とする。メディアなどで報じられているインドネシアに関する情報は、主観を伴う個人的な先入観によって形成されている可能性がある。また、そのような先入観が普遍的な価値として定着していることもある。本フィールド・スタディでは、メディアなどから入手できるインドネシアに関する情報や知識を批判的に考察する。テーマとして、インドネシア社会が抱える未解決な問題・課題を取り扱うので、現地(フィールド)で直接観察した文化的・社会的文脈を考慮し、独創性のある問題解決策を導き出すことが目的である。</p> <p>The primary objective of this programme is to identify and investigate various culturally unique issues (such as cultural diversity, multiculturalism, and national identity) and critical problems (such as poverty, environmental problems, and democracy) in Indonesia through multi-disciplinary perspectives. Any information, knowledge and news about Indonesia that we receive through mass and social media may have "subjectively" been constructed through personal ideological orientations, prejudices or deviated facts. These media may also have narrated such subjectively constructed information and news as generally accepted values. This programme aims to critically investigate locally specific issues and various unsolved social problems in Indonesia, and to equip students with creative research skills that incorporate locally and culturally nuanced approaches.</p>					
到達目標 Course Objectives	<p>1) フィールド・スタディ(フィールド・ワーク)の手法を理解し、実践できる。 2) フィールド・スタディを通じて批判的・論理的思考力、コミュニケーション能力、協調性を身につけることができる。 3) フィールド・スタディを通じてインドネシアが抱える諸問題の多面性を理解し、解決策を提案できる。 4) メディアや先行研究で提示された情報とフィールド・スタディで直接収集した情報の違いを認識し、今後の研究課題を設定できる。</p> <p>Upon successful completion of the programme, students should be able to: 1) understand the significance of field-study and implement it as a research method; 2) acquire critical and logical thinking skills, communication skills, and cooperative manner; 3) understand multifaceted dimensions of problems that we observe and propose logical problem-solving hypotheses; and 4) identify the intellectual and practical gaps between the information and knowledge presented in the existing literature or media and the one collected throughout this field-study, and, ideally, propose potential – further – research questions.</p>					

<p>授業方法 Teaching Methods</p>	<p>事前授業: 社会、文化、政治、経済の分野でインドネシアが抱える問題について事前調査を行う。第1回目の授業はインドネシア社会、文化、政治、経済についての講義を行い、現在どのような問題が存在するのかを歴史的な背景を踏まえて紹介する。第2~3回目の授業では、インドネシアが直面する様々な問題が、メディアや先行研究でどのように論じられているのかをグループで議論する。また、グループで議論した問題を現地実習でどのように調査するのか計画を立てる。</p> <p>現地実習 事前授業で取り上げた問題について理解を深めるため、以下の2つの方法で現地実習をすすめる。1つ目は、現地(フィールド)の事情を直接観察する。博物館、中華街、文化施設での情報収集、聞き取り調査が含まれる。2つ目は、観察対象に関連する機関を訪問し、意見交換を行う。ジャカルタ(やその他に地域)に拠点を置く、国際機関やNGOを訪問し、問題解決へ向けた活動状況について話を伺い、意見交換を行う。また、現地実習中は、調査結果を整理することを目的に、フィールド訪問後に各グループで討論を行う。</p> <p>事後授業 現地実習での調査結果をまとめ、グループ・プレゼンテーションを行う。</p> <p>Pre-field-study lectures: It aims to provide with students with an overview of social, cultural, political and economic problems that Indonesia faces. The first session introduce these problems by considering their historical backdrops. The second and third sessions, entirely based on class discussions, conduct preliminary research on these problems by looking at the existing literature and media, and also establish research plans in the field.</p> <p>On-site field-work: The focus of the field-work is twofold. Firstly, it employs the method of direct observation by organising field-visits to culturally/locally specific areas, such as mosques, temples, China-town, where students have the opportunities to conduct qualitative (informal) interviews. Secondly, it arranges visits to relevant international organisations, governmental agencies, and non-governmental organisations, where students have opportunities to have numerous discussions with relevant specialists.</p> <p>Post-field-study seminar: Students are required to give a group presentation, which summarises the significance of their findings, at the end of the programme.</p>
<p>毎回の授業の概要 Overview of Each Class</p>	<p>【事前授業】※教室は後日連絡 【Pre-field Sessions】※Classroom will be announced at a later date.</p> <p>2023/11/29 (Wed) ・ 5th period: インドネシア: 社会と文化 / Indonesia: Society and Culture</p> <p>2023/12/13 (Wed) ・ 5th period: フィールド・スタディ: 課題 / Introduction to Field-study I</p> <p>2024/1/24 (Wed) ・ 5th period: フィールド・スタディ: 計画 / Introduction to Field-study II</p> <p>【事後授業】※実習地で実施 【Post-field Session】※To be conducted on-site.</p> <p>2024/2/23 (Fri) ・ 夕方 Late afternoon: 最終プレゼン / Final Presentations</p>
<p>実習スケジュール Practice Schedule</p>	<p>2024/2/18(Sun) 福岡からインドネシア(ジョグジャカルタ)へ渡航 / Transfer from Fukuoka to Yogyakarta, Indonesia</p> <p>2024/2/19(Mon) (AM) Yogyakarta Provincial Government (PM) Jogja Tourism Board or Borobudur Tourism Authority</p> <p>2024/2/20(Tue) (AM) Yogyakarta Transportation Agency (PM) Yogyakarta Palace & Friends of the Earth (WALHI) Yogyakarta (NGO)</p> <p>2024/2/21(Wed) (AM) Project Child (NGO) (PM) Deaf Art Community (NGO) & BTS Batik</p> <p>2024/2/22(Thu) (AM) Borobudur (PM) Prambanan & Ramayana Ballet</p> <p>2024/2/23(Fri) (AM) Universitas Gadjah Mada (PM) Universitas Muhammadiyah Yogyakarta (夕方 Late afternoon) 最終プレゼン(事後授業) / Post-field session on site)</p> <p>2024/2/24(Sat) ジョグジャカルタから福岡へ帰国(機内泊) / Transfer from Yogyakarta to Fukuoka (spending night on a plane)</p> <p>2024/2/25(Sun) 福岡着(解散) / Arrive Fukuoka (Dismissal)</p>

授業外学習(予習・復習など)の内容と分量 Study Content and Load outside of Class (preparation and review)	フィールド・スタディーを進めるにあたり、現地の問題点や調査課題をまとめた研究計画書を作成する。 In order to effectively conduct the field-study, students are required to produce a research proposal which includes the nature and background to critical social issues/problems to be looked at in the field-study, and research questions to be answered.	
成績評価方法 Method of Grade Evaluation	5段階評価 Letter grades (A+, A, B, C/ F)	
	事前学習への積極的な取り組みと調査計画 / Participation in the pre-field study seminar and research proposal :30%	
	現地での積極的な取り組み / Participaiton in the field-study :30%	
	最終プレゼンテーション / Post-field study presentation :20%	
最終レポート / Final Report :20%		
多文化協働学修の実践方法 Method of Implementing Multicultural Collaborative Learning	多文化協働学修が本プログラムの基本となる。多文化・多言語空間においてのグループワークや調査を行うとこで、多文化協働の意義や重要性を理解し、多文化共生社会での対応能力を養成する。 The implementation of multicultural collaborative learning is a significant component of this programme. Strudents are strongly required to conduct groups-works and collaborative and independent research in multicultural and multilinguistic environments. This programme is designed to helps students understand the significance of multicultural collaboration and equip them with essential skills and capabilities to live in multicultural societies.	
授業担当教員の実務経験 Instructor's professional experience/involvement (outside academia)	特に無し / Nil	
学生への要望事項 Requirements for Students	特に無し / Nil	
テキスト / 備考 Textbook Notes	特に使用しない / Nil	
テキスト (授業を履修する上で、購入が必須となる書物) Textbook (Students will need to purchase these textbooks when registering for this course.)	特に使用しない / Nil	
参考文献備考 Further Reading Notes	事前授業で提示する / There are no "set texts" for this course. The reading list will be provided by the instructor in the pre-field study session.	
参考文献 (図書、視聴覚資料) ライブラリリザーブコーナーに設置 Further Reading (Books, audiovisual materials) (Availableat Reserved Corner in the APU Library)	事前授業で提示する / There are no "set texts" for this course. The reading list will be provided by the instructor in the pre-field study session.	
参考文献 (雑誌、年鑑白書等) Further Reading (Journal articles, white papers, year books, etc.)	事前授業で提示する / There are no "set texts" for this course. The reading list will be provided by the instructor in the pre-field study session.	
備考 Misc. Notes	募集人数 Number of participants	15
	最少実施人数 Minimum number of participants	5
	派遣地域安全情報 Safety Information for Dispatch Areas (as of: (Y) 2023 /(M) 6 /(D) 8 現在)	1
	参加費(目安) ※実際の費用は受講者数確定後、再度案内します。 Program fee (approx.) ※Actual program fees will be announced again after the number of participants is confirmed.	約 205,000円 / Approx.205,000 JPY [上記に含むもの / Fees included] ・航空券 Airfare ・宿泊費 Accommodation ・現地交通費 Transportation on-site ・委託費 Outsourcing costs [上記に含まれないもの / Fees not included] ・食費 Foods expenses ・ビザ取得費用(必要な場合) Visa application & its related fees (if applicable) ・海外旅行保険、危機管理サポート費用 Overseas travel insurance & Risk Management Support System ・日本国内交通費 Ground transportation in Japan ・予防接種費(希望者のみ) Immunization (optional) ・上記に以外のすべての費用 All costs not included above
担当教員研究室電話番号 Office Phone No.	4402	
担当教員E-mailアドレス E-mail Address	t-tsuka@apu.ac.jp	
E-Book および 関連ページ E-Book & Course-related links	特に使用しない / Nil	

項目/Items	内容/Contents					
開講年度 Year	2023年度/AY2023					
講義コード Subject Code	-					
科目ナンバー Course Number	[17]-[M]-[Com]-2					
開講セメスター Semester	秋セメスター/Fall semester					
講義名・クラス名 Subject / Class	フィールド・スタディ					
所属学部/カリキュラムごとの履修可否・科目分野・科目名・申請可能セメスター Course availability by college/curriculum, subject field, course title, and eligible semester for application	【2023FA開講】		履修可否	科目分野	科目名	申請可能セメスター
	学部	カリキュラム				
	APS	2017	○	他学部科目 Other College Subjects	APMフィールド・スタディ APM Field Study	3~7
		2023	×			
	APM	2017	○	APM専門教育科目 APM Major Education Subject	APMフィールド・スタディ APM Field Study	3~7
		2023	×			
ST	2023	×	-	-	-	
プログラム名 Program Name	フィールド・スタディ「企業調査研究プログラム(ベンチャー・スタートアップ、中小企業に関する九州・沖縄のケーススタディ)」					
担当教員 Instructor	藤本 武士					
実習地 Program (practicum) Venue	福岡県うきは市、福岡市、沖縄県那覇市、沖縄市					
単位数 The number of credits	2単位/2 credits					
備考 Misc. Notes	開講言語/Program language		日本語/Japanese			
	その他/ Other on languages		-			
講義分野 Subject Field	-					
履修の目安 Recommended Qualifications / Knowledge	特になし					
授業概要 Course Overview	本プログラムは、九州経済と国際経営を、九州圏内の経済の特徴から理解し、各地域経済圏の産業の特徴と海外展開する中小企業の経営について学ぶ。					
到達目標 Course Objectives	このコースを受講することで次の三つの理解に到達します。 ①各地域経済圏の社会文化的や産業構造を理解できる ②国際展開・地域活性化の意義・インパクトを理解できる ③各国地域の対象市場での政治的・法的・社会文化的な環境要因における共通項や相違点を理解できる					
授業方法 Teaching Methods	ローカル経済とグローバル経済との関係が、各経済圏でどのような特徴を持つのか、どのような経済状況の中で企業の経営がされているのかをデジタルライブラリーのデータベースを使って事前調査する。得られた情報を元にして訪問する企業の過去の当時の状況や、現在置かれている課題についても議論しグループで仮説を立てる。 実際に経済産業省経済産業局や企業を訪問しヒアリングで検証する。 訪問企業は、福岡・沖縄圏内で海外展開する企業や県内の地場の活性化に寄与する中小企業を中心に教員が選抜肢、訪問ヒアリング調査を行う。 企業にとって近年課題となる環境問題は国地域の違う対象市場によりテーマが異なるため、それぞれのグループに学生の言語基準や回生が分散するようにグループ分けを行う。					
毎回の授業の概要 Overview of Each Class	【事前授業】※教室は後日連絡					
	① 12/13(水)5限 オリエンテーション・授業に関する必要事項の確認					
	②③ 12/20(水)5,6限 授業の進め方とテーマ設定					
	④⑤ 1/10(水)5,6限 情報収集作業・ディスカッション					
	⑥⑦ 1/17(水)5,6限 情報収集作業・ディスカッション					
	⑧⑨ 1/24(水)5,6限 情報収集作業・ディスカッション					
⑩⑪ 2/14(水)2,3限 仮説と検証方法の確認・ディスカッション						
【事後授業】						
① 2/24(土) 最終プレゼンテーション・ふりかえり(実習後、沖縄にて実施)						
実習スケジュール Practicum Schedule	2/21(水) キャニコム社、九州経済産業局					
	2/22(木) JETRO沖縄・沖縄総合事務局					
	2/23(金) TESIO					
授業外学習(予習・復習など)の内容と分量 Study Content and Load outside of Class (preparation and review)	事前授業最終日には、事前授業期間中に学生がディスカッションしてまとめた質問事項を完成させ、訪問先企業に送付する。授業の予習は次の授業で議論する予備情報を教員の指導に合わせて収集する。毎回の授業終了後は当日の授業で議論した内容から質問状に加筆修正し、翌日授業に備える。					
成績評価方法 Method of Grade Evaluation	5段階評価 Letter grades(A+, A, B, C/ F)					
	・参加貢献度: 20%					
	・個人レポート: 40%					
・最終グループプレゼンテーション: 40%						

多文化協働学修の実践方法 Method of Implementing Multicultural Collaborative Learning	国地域、回生、国内・国際学生のバランスを考慮しグループ編成を行う。そこで議論が多様化すること、訪問先での現場関係者とのヒアリングに特徴が出せるように工夫する。	
授業担当教員の実務経験 Instructor's professional experience/involvement (outside academia)	特に無し	
学生への要望事項 Requirements for Students	特に無し	
テキスト備考 Textbook Notes	特に無し	
テキスト (授業を履修する上で、購入が必須となる書物) Textbook (Students will need to purchase these textbooks when registering for this course.)	特に無し	
参考文献備考 Further Reading Notes	特に無し	
参考文献 (図書、視聴覚資料) ライブラリリザーブコーナーに設置 Further Reading (Books, audiovisual materials) (Available at Reserved Corner in the APU Library)	特に無し	
参考文献 (雑誌、年鑑白書等) Further Reading (Journal articles, white papers, year books, etc.)	特に無し	
備考 Misc. Notes	募集人数 Number of participants	15
	最少実施人数 Minimum number of participants	5
	派遣地域安全情報 Safety Information for Dispatch Areas	—
	参加費(目安) Program fee (approx.) ※実際の費用は受講者数確定後、再度案内します。 ※Actual program fees will be announced again after the number of participants is confirmed.	約50,000円 [上記に含むもの / Fees included] ・謝礼(1名あたり最大10,000円程度を予定) ・福岡・沖縄県内マイクロバス費(1名あたり最大40,000円を予定) ※費用は受講者数によって頭割りとなります。 [上記に含まれないもの / Fees not included] ・実習先までの往復交通費 ・宿泊費 ・食費 ・国内旅行保険費用(1,000円) ※合格発表後、担当教員より全行程の移動経路や日時詳細が提示されます。提示内容に合わせて、受講者各自で航空券や宿泊施設等の手配を行う必要があります。
担当教員研究室電話番号 Office Phone No.	0977-78-1012	
担当教員E-mailアドレス E-mail Address	tfujimot@apu.ac.jp	
E-Book および 関連ページ E-Book & Course-related links	APUのデジタルライブラリー資料	